

CITY OF YOKOHAMA

自動車走行データを活用した 電気自動車用急速充電器の最適配置検討

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と連携協定を締結

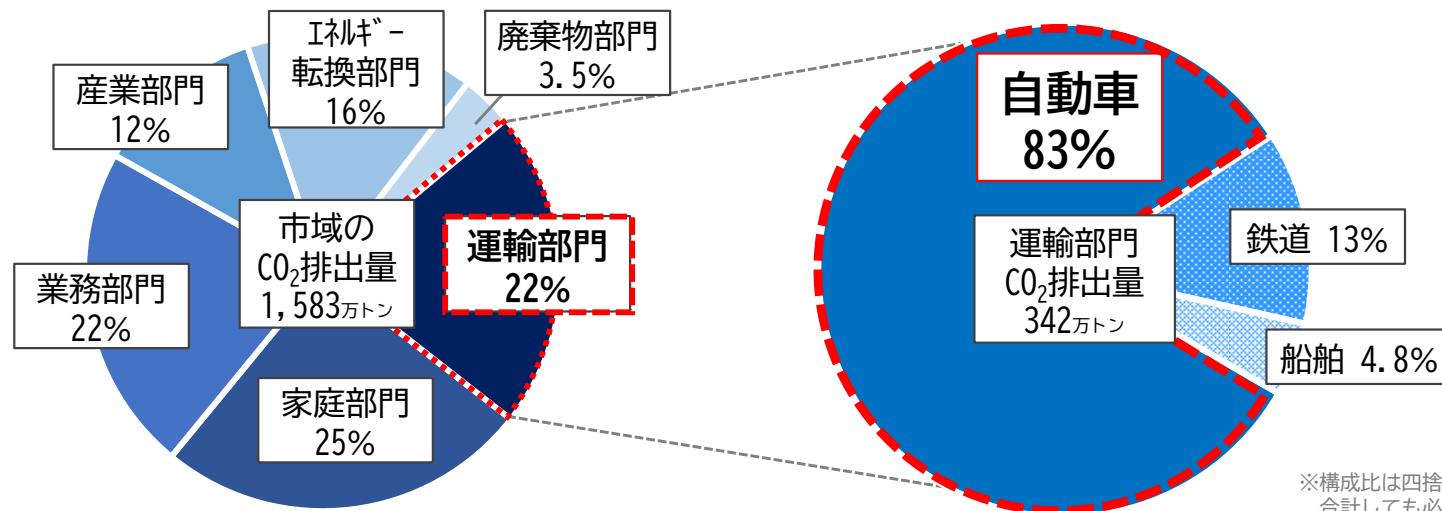
2025年10月23日
市長定例記者会見



市域における二酸化炭素の排出状況

- 市域の二酸化炭素排出量のうち、
約2割を運輸部門が占め、そのうち**約8割が自動車由来**
⇒ 運輸部門の脱炭素化には、**電気自動車（EV）等の普及が重要**

市域の部門別二酸化炭素排出割合(2023年度)



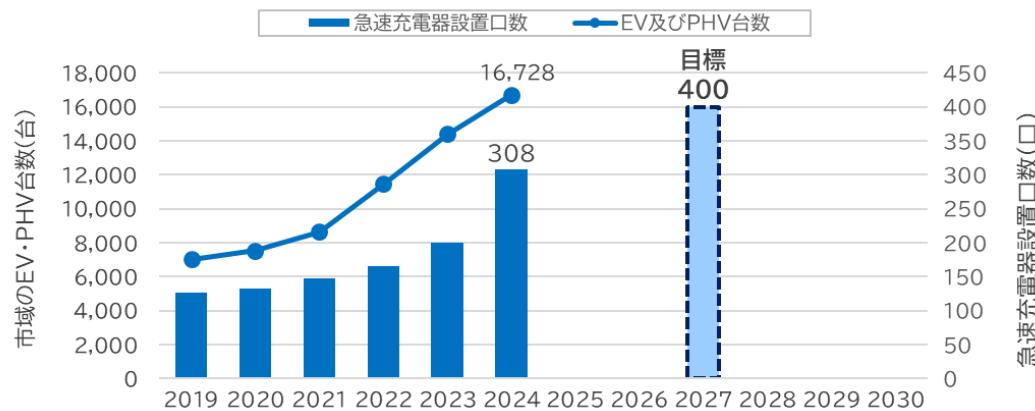
電気自動車等の普及促進の取組

充電インフラの整備推進

- 2021年度より[全国初](#)の公道充電器を設置
- コンビニ等への設置支援により拡大

急速充電器の設置口数は基礎自治体で最大

市内の急速充電器設置口数、
電気自動車(EV)及びプラグインハイブリッド自動車(PHV)台数の推移



青葉区しらとり台の公道充電器

主な政令市の急速充電器設置状況

2025年3月4日時点

自治体名	設置口数
横浜市	308 第1位
名古屋市	268
神戸市	152
大阪市	133
さいたま市	127

電気自動車の普及に向けた課題①

- 主な課題に充電に対する不安があると言われている

- 市内の住宅の約6割が集合住宅。

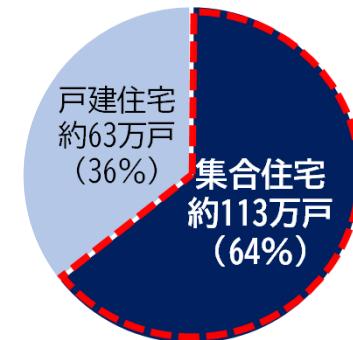
集合住宅での充電器設置は、住民の合意形成が課題



- 集合住宅等の自動車ユーザーが、自宅充電に代わって

快適に利用できる充電インフラを整備し、電気自動車の普及拡大を図ることが重要

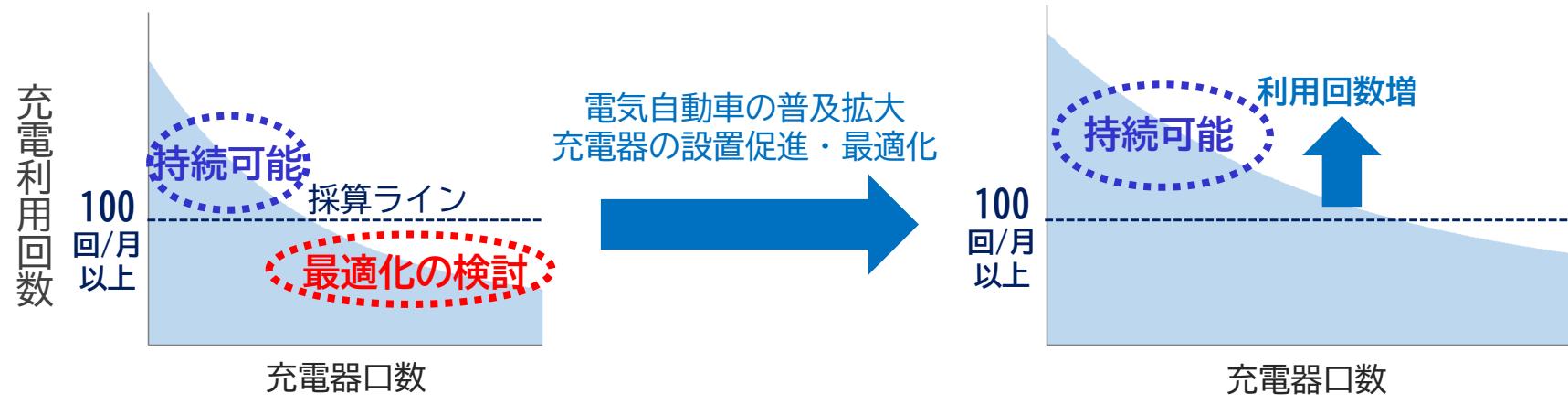
市内の建て方別住宅戸数・割合



出典：令和5年住宅・土地統計調査
(国土交通省)調査結果より作成

電気自動車の普及に向けた課題②

- 利便性向上に加え、充電事業の自立化(採算ラインのクリア)に向けた充電器設置場所の最適化が求められている



あいおいニッセイ同和損害保険(株)のご協力で、自動車の走行データを活用し、急速充電器の最適配置を進める

データに基づく急速充電器の設置シミュレーション

1

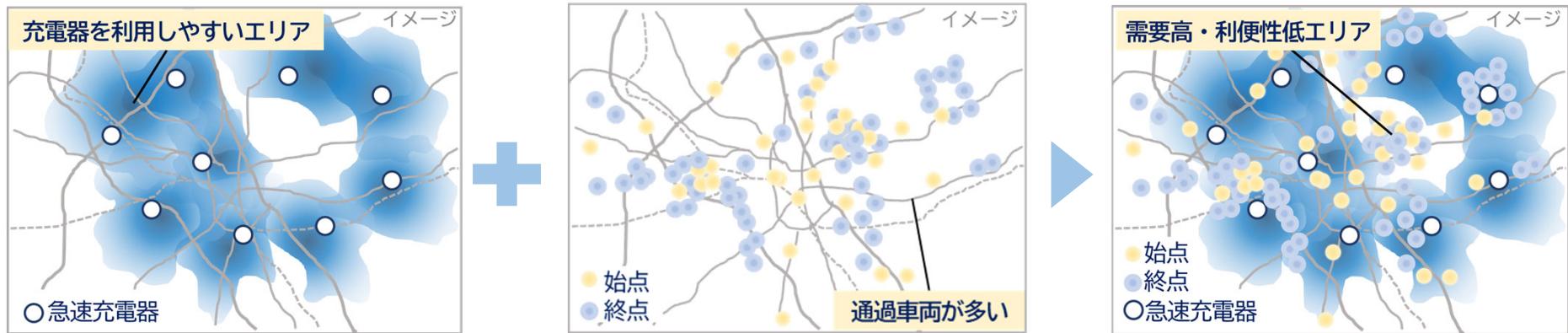
走行データの取得・分析

- あいおいニッセイ同和損害保険(株)が約1,000台の走行データを取得
- 位置情報から走行経路や移動距離、始点・終点や走行時間、滞在時間を把握
- 走行データから、平均移動距離や移動時間を分析



データに基づく急速充電器の設置シミュレーション

2 市内急速充電器の利便性把握



A 平均移動距離や道路状況から、急速充電器が、利用される範囲を推定

B 始点・終点や走行ルート、滞在時間の情報から、通過車両が多い道路を推定

C AとBを重ね合わせ
需要が高く、利便性が低いエリアを推定

3 最適配置の検討

- さらに、横浜市が保有する周辺人口などの統計情報も踏まえながら、利便性向上に向けた設置の優先度を検討し、重点的に急速充電器の設置を進めるエリアを選定

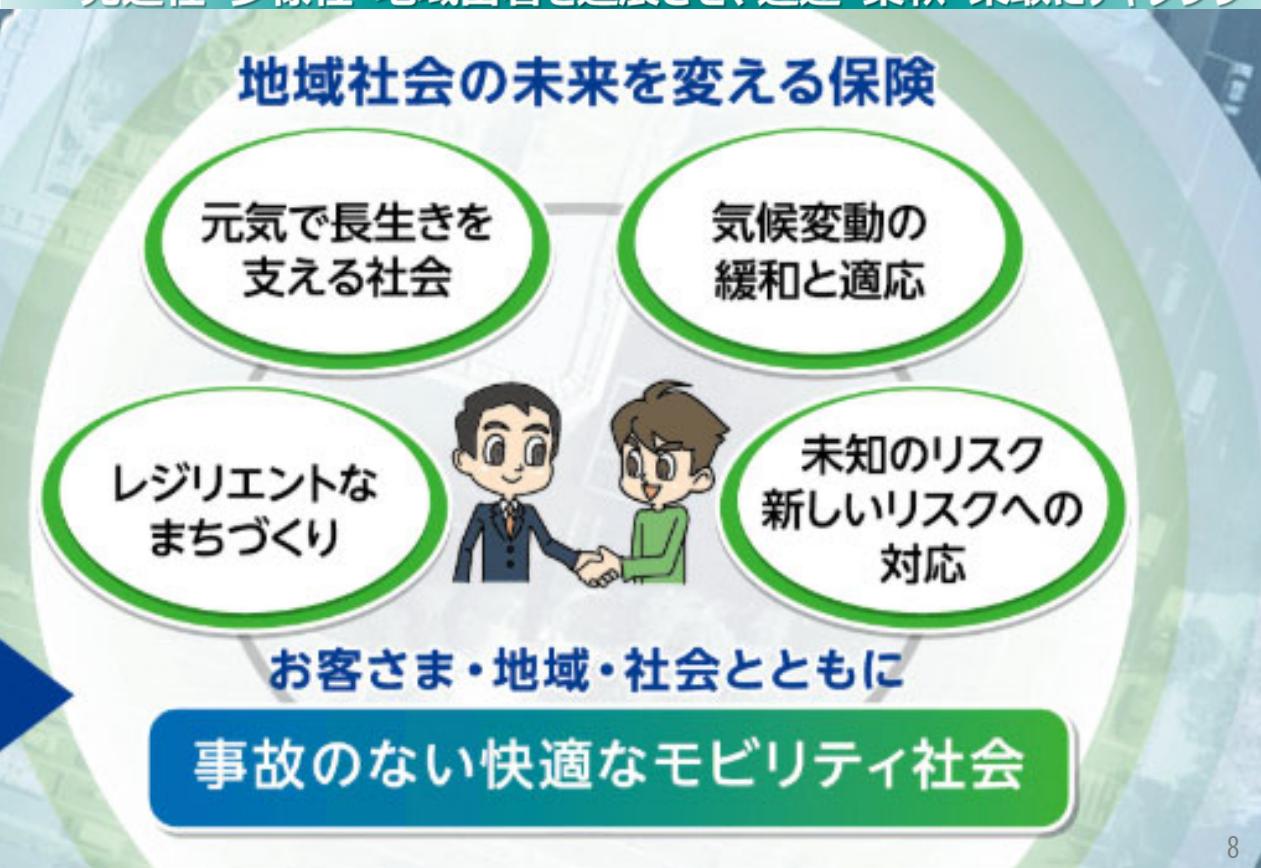
ゲストプロフィール



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
にいろ けいすけ
代表取締役社長 新納 啓介 様



MS&AD あいおいニッセイ同和損害保険
シーエスブイ バイ ディーエックス
CSV×DXを通じて、
お客さま・地域・社会の未来を支えつづける
先進性・多様性・地域密着を進展させ、迅速・柔軟・果敢にチャレンジ



事故を起こさない保険 ~テレマティクス自動車保険~

MS&AD あいおいニッセイ同和損害保険



地域社会の未来を変える保険へ ~SAFE TOWN DRIVE~

MS&AD あいおいニッセイ同和損害保険



地域社会の未来を変える保険へ ~SAFE TOWN DRIVE~

MS&AD あいおいニッセイ同和損害保険

事故被害軽減

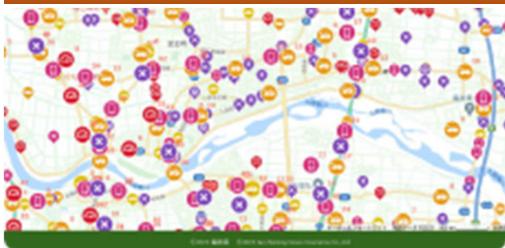


安全な道路が整備されることで、地域の交通事故が減少し、その町に住むお客様が事故被害にあうリスクを軽減する。

走行データの活用

データに基づいて危険な道路を判定し、道路の整備、標識の新設など、地域の交通課題を解決する。

交通安全マップ



交通安全マップを活用することで、実際の交通安全対策（ゾーン30エリア指定等）の実施に貢献

路面状況把握システム



自動車の上下振動データから路面の損傷箇所を検知し、自治体の道路維持管理をサポート

減災

温暖化抑制による自然環境の維持によって、お客様が自然災害被害にあうリスクを軽減する。



エコドライブ

スコア改善を意識したエコドライブによって、町全体のCO₂排出量を削減する。



5月は運転操作ミスによる駐車場事故が多発しており、新入社員による事故も発生しています。運転に不慣れな方は同乗指導を受け、ひとりで運転しないようにしてください。運転開始時には周囲確認を必ず行い、VisualDriveアプリに表示される運転アドバイスを併せて活用してください。



安全運転スコアが高いほど燃費も良くなることがわかっています！

安全運転スコア	59点以下	60～79点	80～89点	90～99点	100点
	ガソリン車の例	1.09倍	1.13倍	1.19倍	1.24倍
燃費	ハイブリッド車の例	1.12倍	1.16倍	1.24倍	1.32倍

神奈川県在住のお客さまが安全運転により
2025年5月に削減したCO₂排出量合計

2025年6月

約285.7t



杉の年間吸収量
約30,157本分
に相当します。

横浜市内での取組み～脱炭素社会の実現に向けて～

MS&AD あいおいニッセイ同和損害保険

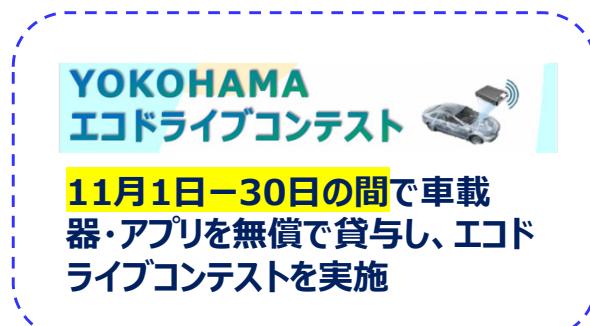
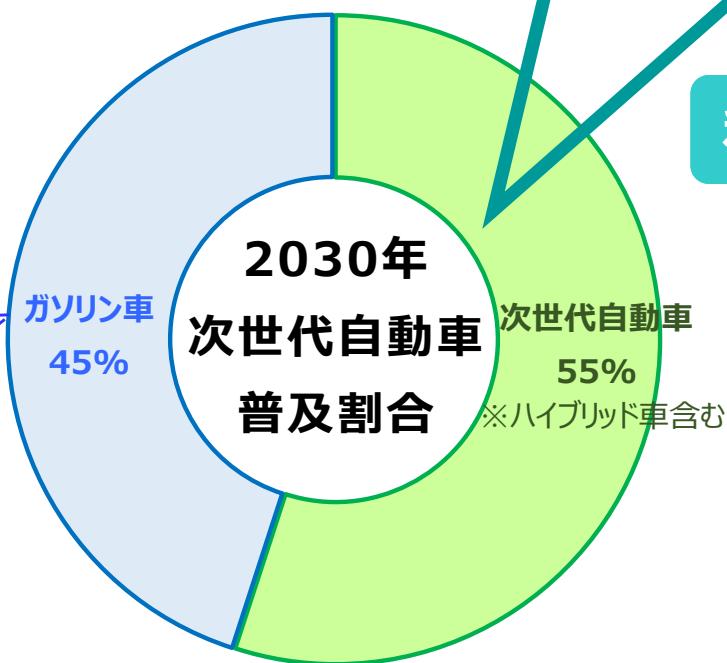
※ガソリン車・ハイブリッド車・電気自動車を対象

個人・法人
1,000台分
走行データ



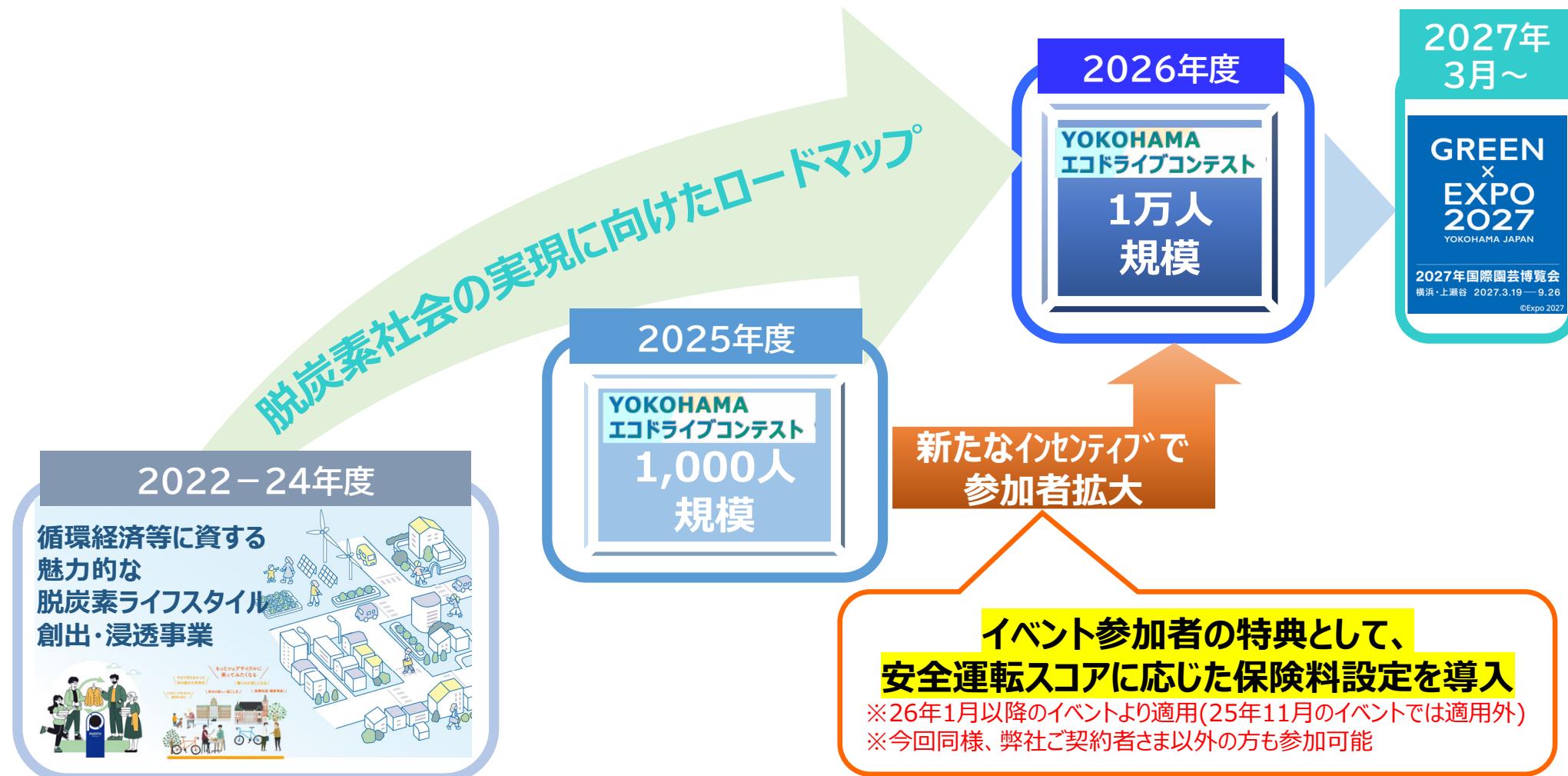
当社初
充電インフラの
最適配置シミュレーション

利便性の高いインフラ整備



今後の取組みについて～ロードマップ～

MS&AD あいおいニッセイ同和損害保険



今後の展開

- 今年度は、1,000台の走行データから、自宅充電に代わる「日常利用の充電器」の最適配置をシミュレーション。市域で重点的に急速充電器を設置するエリアを設定



- 検討結果を活用し、公道設置や民間事業者との連携による充電器の設置促進
- 次年度以降、走行データを増やして精度向上を図るとともに、旅行や営業など「移動の途中での一時的な充電」も考慮した、持続可能な充電インフラ最適配置を検討



持続可能なグリーン社会の実現へ

